

心の旅路

呉市長
小村 和年

フェイクニュース

昨年行われた米国大統領選挙は、私共に、自由で公正であったはずの米国社会が大きく変質、劣化してきているのではないかという印象を強く与えました。

その象徴的なものが、「フェイク(偽)ニュース」と言われるもので、曰く、
・ヒラリークリントンが過激派組織 I S (イスラム国) に武器を供与した

・街のピザ屋が、ヒラリークリントンが関わる児童売春の拠点になっている疑惑があるというような、相手候補のスキャンダルを捏造し拡散させるもので、誰もが「馬鹿げたデマ」と一笑に付すると思いきや、これを真に受けた男が、ライフルを持ってピザ屋に押し入るといふ事件が起きるほど、大統領選挙の投票行動に大きな影響を与えたと言われています(そういえば、私も、庁舎建設に絡んで5億円を貰ったという怪情報を信じた人

からこっぴどく叱られました(笑))。

嘘の報道や意図をもって偏ったニュース・怪文書を流すということは昔からありましたが、近年インターネットの発達により、誰もがどんな情報でも発信できるようになると、怪情報は無限に拡がる危険性をもつようになりました。

特に映像や写真がパソコン上でどのようにでも合成加工できるようになると、一般人には殆ど真偽の判断がつかなくなりました(熊本地震のとき、動物園のライオンが逃げ出したという偽ニュースは、写真がついていたため、私を含め多くの人が信じることとなりました)。日本人には不得手ではありますが、これをどう判断するかは選択は、どうも受け手次第ということになってきているようです。

人間通と言われたカエサル(古代ローマの英雄)は「多くの人は見たいと欲する現実しか見ていない。(聴きたいことしか聴いていない)」と言いましたが、全く至言だと思えます。であるとするれば、ニュース(偽ニュース、デマも)を見て、それをどのように受けとるか、面白いと思うか、卑劣だと思うかは、存外、自分の心の中を覗いているのかもしれないですね。